

1. シェア分析だけでなく通信市場全体の動向分析を

- ・これまでの競争評価は、国内の通信市場を対象に細分化したサービスごとの契約数シェアの分析に重点が置かれてきましたが、国内の通信市場(特に固定通信市場)は近年縮小傾向にあります。⇒資料1

契約数だけでなく、売上高や利益率の推移などについても分析を行うことにより、なぜ国内通信市場のパイが縮小しているのか、その原因分析や、国際競争力向上の観点から海外市場との比較・分析を行っていただきたいと考えます。

2. ビジネスモデルの変化に対応した分析を

- ・国内外の通信市場では、様々なネット関連サービスやビジネスが、垂直統合モデルや広告モデルによって活発に登場しており、通信サービスだけを切り離して市場分析を行うことは難しくなっています。

したがって、今後は関連市場を含めたサービスの融合やビジネスモデルの変化等を踏まえた分析が必要になるものと考えます。

- (例)・検索、ポータル、オークション、コンテンツ配信、ブロードバンドアクセス等を総合的なネットサービスとして垂直統合モデルまたは広告モデルで提供するビジネス (グーグル、ヤフー、USEN (GyaO) 等)
- ・オペレーションソフト、コンテンツ、端末機器販売等の収益力をベースに、関係するユーザ認証、コンテンツ配信、ブロードバンドアクセス等を提供するビジネス (マイクロソフト、タイムワーナー、アップル 等)

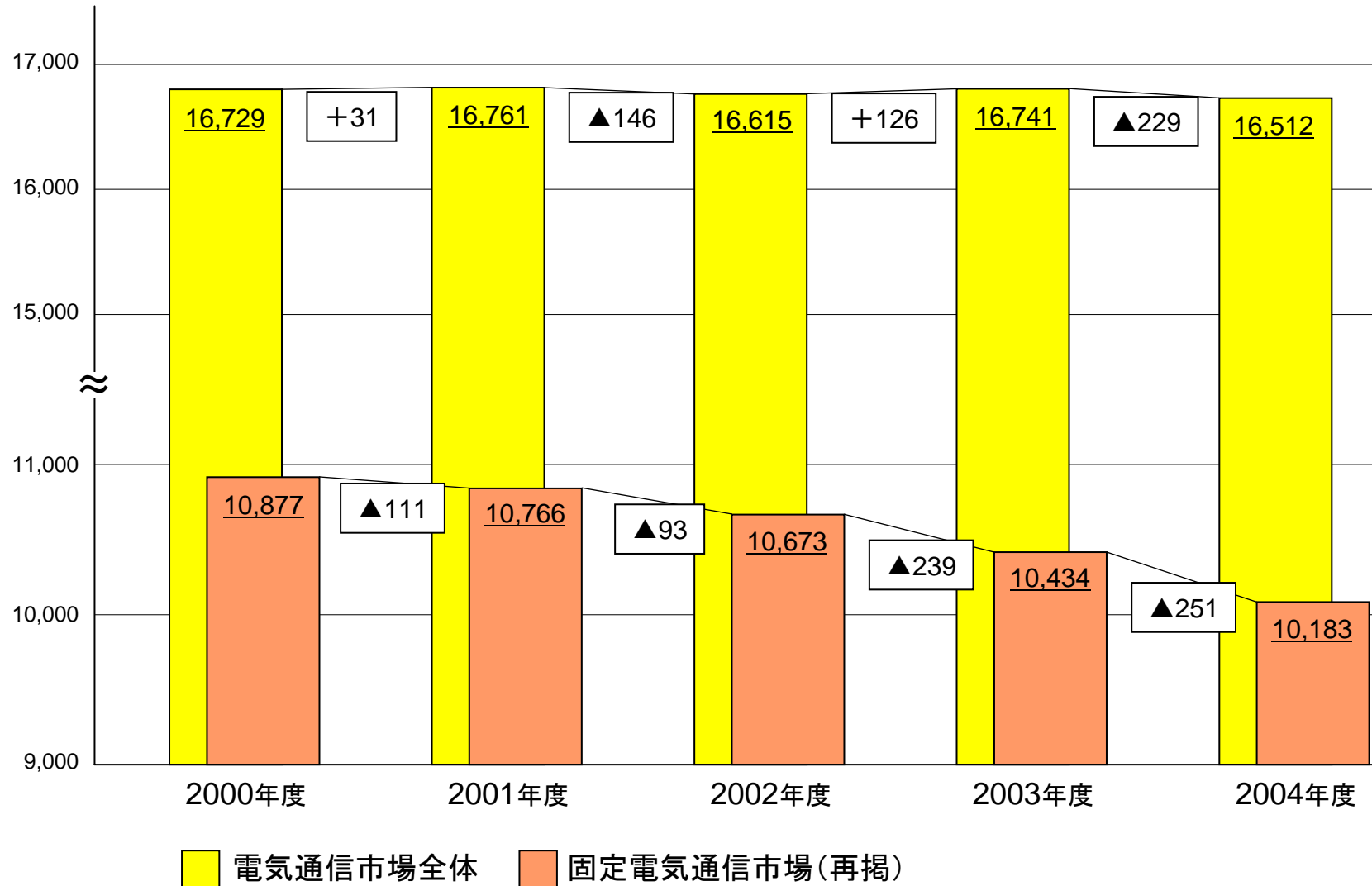
3. 電話とブロードバンドの違いを踏まえた分析を

(1) 独占に競争が導入された電話とは異なり、ブロードバンドは初めから競争環境にあります。また、ブロードバンドは、自前で加入者光ファイバを設置して、あるいは整備されたアンバンドルルールやコロケーションルール等を利用し、ルータ等の局内装置を自前で設置して、競争事業者がエンド・トゥ・エンドの独立した自前のIPネットワークを構築してサービスを提供しています。その結果、例えば弊社の地域IP網は、接続料を設定したものの、利用する事業者は皆無となっています。

こうした競争構造の変化を踏まえた分析をしていただきたいと考えます。 ⇒ 資料2

(2) また、FTTHサービスでは電力会社の子会社や提携通信会社が設備ベースで参入し、激しい競争が展開されておりますが、①親会社との取引条件、②他事業者へのダークファイバの提供状況や提供条件(価格)などが不明です。電力会社が通信市場でその電力事業における独占力(レバレッジ)を行使していないか分析していただきたいと考えます。

(単位:十億円)



(出典) 総務省「情報通信白書平成18年版」における「日本の情報通信産業の部門別名目生産額(市場規模)の推移」より抜粋

- 固定電話網では、中継事業者が自社中継網とNTT東・西の地域網と相互接続することによってサービスを提供。他方、IPネットワークでは、アクセス回線を自前設置または他社設備の借用により、各社がエンド・トゥ・エンドの独立した自前のネットワークを構築してサービス提供。

